

5月所感

家庭学習の習慣化

狭山市立教育センター

所長 鈴木 浩明

小・中学生時代は、建築でいえば建物の基礎となる土台を作る時期であると言われていて、とくに「基本的な生活習慣」を身に付けることが重要で、そのなかでも、自分のことは自分ですること、人の話をよく聴くこと、他の人の気持ちになって考えられることなど集団生活をするうえで、とくに身に付けておかなければならないことがあります。

家庭学習においては、宿題があってもなくても自然と自分から進んで机に向かう習慣を身に付けることが大切です。宿題があるから仕方なしに学習するとか、人にいわれたから机に向かって学習するなど、受身的な学習ではけっして長続きしません。また、インターネットやスマートフォンなど子供の心を虜にするものがたくさん存在しますが、利用時間にけじめをつける強い気持ちを持つことが肝要です。

時には、弱い心に打ち勝つ強い心、つまり我慢することが大切です。習慣化して毎日続けて学習していくと、学習の仕方がわかるようになり、わからないことは自分で解決する方法が身につくようになります。そして、進んで学習する楽しさに気付くようになっていきます。

家庭学習を習慣化することは、学校で学習し、さらに興味をもって調べてみたいことが出来たとき、いっそう学習を深める機会を作ることにもつながります。人の力を借りずに自分で興味を持って学習を進めることは、自分の知的財産を増やすことにつながり、とても価値のある素晴らしいことです。この学習態度こそ生きる力そのものと言えます。このような家庭学習の習慣化は、将来の自分自身の大きなエネルギーになっていくものと思います。

毎日、30分でも自分から机に向かって宿題や自主学習などをお勧めします。

初めは机に向かうのがつらく、習慣になるまではなかなかうまくできないかもしれませんが、やってみたいことなど興味のあるところから始めるとよいかもしれません。